



University of the Ryukyus Library Bulletin Vol. 28 No. 3 (No. 107) July 1995

「矢内原忠雄文庫」に学ぶ大学教育の理念

垣花豊順

琉大図書館玄関に入って二階左側（下の放送大学からは三階）の閲覧室の一角に矢内原先生（以下敬称略）の文庫がある。矢内原文庫が琉大図書館に設置された背景には隠れたエピソードがある。矢内原は東京大学総長在任中の1957年1月16日～20日までの5日間、琉球大学と沖縄教職員会との招きで来沖され、沖縄本島の各地で前後7回にわたり講演された。その第一声は、当時首里城跡地にあった琉大のグラウンドで行われた「世界、沖縄、琉球大学」と題する講演だった。当時沖縄は米国の無期限の統治下であって人びとは沖縄の前途を憂えた。そのような状況下にある沖縄において、強者が権力に基づいて弱者を支配することは長年は続かないとの確かな歴史観に基づいて、間接的ながら沖縄

の将来を示唆する先生の講演は沖縄の人びとを勇気づけた。筆者も地べたに座って先生の講演を聞き、勇気づけられた一人だった。

また、「神は人の心に永遠への思いを与えられた（伝導者の書3の11）」との人間観に基づく慈愛に満ちた愛楽園（ハンセン氏病患者治療施設）における講演は、患者に生きる喜びを与え、人びとの心を癒した。愛楽園から土産として矢内原に送られた患者の文芸作品集『こころの花束』には次のような琉歌が詠まれている。△高さある徳やちぢにかみやびてお情の言葉胸にとめら（高いお徳はちぢ（頭）にいただき、御情の御言葉は胸に染めましょう）、△神とものにあゆむ大学のあるじ島あげて拝む今日のうりさ（うれしさ）。

目次

「矢内原忠雄文庫」に学ぶ大学教育の理念	1	本学教官著作寄贈図書案内	10
平成6年度図書館統計	4	図書館事情	10
沖縄関係資料新着案内	7	医分館だより	12
		お知らせ	12

矢内原の講演に勇気づけられたのは大人だけではなく。講演の内容をよく理解できない中学生も矢内原が柔和な表情である時は聴衆を諭すかのように語りかけ、ある時は人びとを鼓舞するかのように身を乗り出して獅子吼する姿に感動した。池間誠（当時中学生）は1月18日コザ中学校で教職員に対して「戦後の教育理念」と題して行われた講演会に出席し、矢内原の「希望に生きよ」との言葉に心を打たれた。矢内原に憧憬した池間少年は小樽商大へ進み、一橋大学大学院で矢内原と同攻の国際経済学を専攻することになった。国際経済学会に入会した池間は、間もなく矢内原忠雄の三男で当時慶應義塾大学教授だった勝氏（現在は常葉学園浜松大学国際経済学部教授）の知遇を得て研究活動に精励するようになった。現在一橋大学経済学部学部長の重職にある池間は「勝教授は忠雄先生と風貌がそっくりなので、親近感を感じて親しくなり教えを受けるようになった」と語っておられる。矢内原忠雄が昇天した後、蔵書は東京大学、国際キリスト教大学、慶應義塾大学等に寄贈された。池間は、矢内原の息吹を沖縄に残したいと念じて、なお残っている矢内原の蔵書等を琉大図書館へ寄贈することを勝氏に提案した。勝氏は、矢内原が沖縄に対して深い関心をもっていたことや沖縄の地理的・歴史的背景に照らして、南洋群島調査資料を主体とし、図書と直筆原稿等を寄贈することにした。小樽商大で池間と一緒に学んだ宮城準（琉球セメント専務）は本を搬入するための資金を援助し、小樽商大、一橋大で池間の1年先輩の富永斉（琉大法文学部教授）が本の受入れに伴う雑務を処理して、矢内原文庫の設置は実現した。今回、勝氏によって植民政策に関する蔵書やノート類が追加寄贈され、矢内原文庫は益々充実されることになった。

このように見てくると、矢内原文庫は矢内原の講演で啓発された一人の中学生の夢が長年月を経て現実化したことになる。矢内原の沖縄滞在は僅か5日間であるが、確かな歴史観に基づいて沖縄の進路を示唆し、個人を外形の体だけでなく目で見えない心と霊の宿った存在と見る人間観に基づいてハンセン氏病患者の心を癒し、一般の人びとを勇気づけ、池間少年のように決

定的な影響を受けた人もいる。大学における一般教育の本来の目的は雑多な知識を授けることよりも確かな人間観、歴史観、宇宙観に基づいて、個人、社会、国家において起こる諸もろの事象に対して誤りなく対処する判断力と、その判断力に基づいて自ら又は専門家の能力を借りて実行に移す知恵を培うことである。この観点から考えると、矢内原の7回の講演は一般教育のモデルだと考えられる。大学改革に伴うカリキュラム編成について助言を得るために招いた東京家政学院学長の河野重雄は、カリキュラム編成の指針（大学教育の目的）として、(1)地球市民としての心を育てる、(2)異文化に対して開かれた寛容の心を培う、(3)頭だけでなく手で考える教育—読む書くだけでなくで勤労する教育を挙げているが、矢内原の講演はその全てを包含しているからである。

オウム真理教幹部等による無差別殺人、拉致事件は不気味で常識では考えられない犯行である。犯行の計画・実行者の多くがエリート大学の理科系学部や大学院で現代科学の先端を研究した者であることに人びとは驚き、大学における教育のあり方に疑問を投げかけている。朝日新聞の編集委員山岸駿介は5月8日の朝刊でこの問題を取りあげ、一般教育の学習量を減らす昨今の大学のカリキュラムの改革は逆行しているのではないかと批判している。この問題については以前から琉大教授職員会、法文学部の教授会でも取り上げられ、琉大のカリキュラムの問題点も指摘された。今回の大学改革の弱点は大学卒業に必要な一般教育の単位数を従来の約3分の1に減じたこともさることながら、専門教育をふくめたカリキュラム編成の背後に確かな人間観、歴史観、宇宙観等が見えないことである。戦前の教育は教育勅語に基づいて行われ、天皇を現人神として崇拜し、専門教育も国民を天皇の忠実な臣民にするために行われた。

矢内原は東大在学中にH教授の民法の講義を3年間、M教授の財政学の講義を2年間受講し、その講義内容にウンザリして大学教授を軽蔑するようになった、と述懐している。ウンザリした理由については述べていないが、天皇を現人神とした条文の解釈学と財政論に終始した講義内容にウンザリしたものと考えられる。矢内原

は高等学校で新渡戸稲造から「人間とは何か」ということについて真剣に考える教育を受け、元来は動物学者である内村鑑三の聖書研究会で宗教と科学との関係について勉強し、宇宙の秩序は神が人類に平和をあらしめるために創造し統御して歴史を進展させるとの宇宙観、歴史観を勉強して大学の講義を批判的に見る目を培っていた。そのような宇宙観、歴史観について考えることを教えられなかった多くの人びとは自国の教育、政策を客観的に見る目を失い、異文化を排斥し、軍国主義・ファショイズムへの道を歩んだ。換言すると普遍的な人間観、歴史観、宇宙観について考えることを禁じた教育が第二次世界大戦の遠因となり、個人、社会、国家に悲惨な戦禍をもたらした。敗戦後、天皇は人間宣言を行い、教育の理念は個人の尊厳を重んじ、真理を探究し、平和国家を築くことに変わった(教育基本法)。この激変でそれまでの多くの指導者は思想的に混乱し、悲劇が起こった。矢内原が国家の理想は正義と平和の建設にあることを論じた論文「国家の理想」(『中央公論』昭12年9月)を執拗に攻撃して、矢内原を東大から追放することを煽動した蓑田胸喜が戦後首つり自殺したことはその一例である。

1936年(昭11年)2月26日、一部の軍人が叛乱したいわゆる2・26事件が起こった時、矢内原は、日本の進路とその結末が悲劇をもたらすことを予見して、ドイツ留学時代にたくわえた鼻下の髭を剃り落とし、「誰人をうたんとはせし砲兵か帰るをみれば涙したぎる」との歌を詠んで日本の行く末を悲しんだ。翌年37年、時の東大土方経済学部長が前記の「国家の理想」と題する論文を教授会でとりあげ、教授会の大多数もかかる論文の執筆者は大学教授として適格性を欠くと学部長の提案に賛成した。少数の良心的な教授は矢内原を熱心に擁護したが、矢内原は東大に留まるとこれらの少数派が辞職に追い込まれることを案じて自ら辞職した。終講の辞で矢内原は学生に対し「身体ばかり太って魂の痩せた人間を軽蔑する。諸君はそのような人間にならないように……」との言葉を残して大学を去った。大学を辞めた矢内原は個人誌「嘉信」を発行して平和を訴え、慣れない手付きで庭を耕し野菜や芋を植え、不自由な生活を

していた。八年後矢内原は三顧の礼をもって東大経済学部を迎えられ「真理は必ず勝つ」ことを実感として味わった。

一般教育として自然、人文、社会の三分野にわたって学習量を増やすことは専門知識に片寄らない健全で総合的な判断力と実行力を培うのに必要である。しかし、普遍的な人間観、歴史観、宇宙観に基づかないで百科辞典のように項目別に分類した雑多な知識を注入するだけの一般教育は、クイズ番組に出場するための物知りを育てるだけであまり役に立たない。専門教育も例えば自然科学でケプラーの法則の一つとして「地球は太陽を一つの焦点とする楕円軌道を自転・公転している」との事実を教えるだけでは物事を適正に判断するのに役立たない。地球上に在る鉱・植・動物は相互依存、循環、共生の理によって永続しているが、その背後には神がつくりケプラーの発見した三つの法則が統御し、万物を生かしていることに目を向けさせないと自然科学上の知識、技術は自然を破壊し、戦争の道具に利用される。社会科学上の知識も、例えば憲法の三原則は国民主権主義、基本的人権尊重主義、永久平和主義であることを教えても、それが人のつくった法律上の知識として教えられただけでは底が浅い。それらの三原則は人の及ばない宇宙の秩序に根ざすものであることを意識して研究し、教えないと、憲法は時の権力者によって都合のよいように改変されることになる。

宇宙の真理を教えるのが本来の宗教の役割で、宗教なしには人類は過去を反省し、現在を注視し、未来に希望を見いだすことはできない。人類の長年の歴史的批判に耐えてきた宗教の教えには、宗派を問わずオウム真理教がやっているような殺人と破壊の教えは存在しない。大学における教育と研究は宗教的真理に根ざして実践されるとき、その効果は増強される。矢内原の歩んだ道はそのことを教えている。

(かきのはな ほうじゅん：法文学部教授)



平成6年度図書館統計

1. 蔵書数

平成6年度未現在の蔵書数は、787,516冊（和書530,369冊、洋書257,147）である。この中には、点字資料（和118、洋72）が含まれる。

表1 蔵書数

	和書	洋書	合計
本館	484,940	207,377	692,317
医学部分館	45,429	49,770	95,199
合計	530,369	257,147	787,516

本館蔵書の内、製本雑誌を除いた分のNDC分類別の内訳は表2のとおりである。また、和書・洋書別に比率を示したものがグラフ1である。

表2 本館蔵書のNDC分類別内訳

NDC分類	和書	洋書	合計
0 総記	27,367	5,306	32,673
1 哲学	22,614	7,464	30,078
2 歴史	50,066	6,778	56,844
3 社会科学	131,220	33,921	165,141
4 自然科学	56,998	45,532	102,530
5 工業	48,779	12,703	61,482
6 産業	31,869	7,535	39,404
7 芸術	16,721	1,473	18,194
8 言語	18,151	10,092	28,243
9 文学	43,355	14,882	58,237
合計	447,140	145,686	592,826

2. 雑誌タイトル数

雑誌のタイトル数は本館、医学部分館とも表3に示すとおりである。

表3 雑誌タイトル数

	和書	洋書	合計
本館	3,292	2,058	5,350
医学部分類	1,136	739	1,875

3. 開館日数

平成6年度の開館日数は、本館が276日、医学部分館が294日である。本館の開館日数が医学部分館より少ないのは、増築に伴う移転作業のために2週間ほど休館したためである。

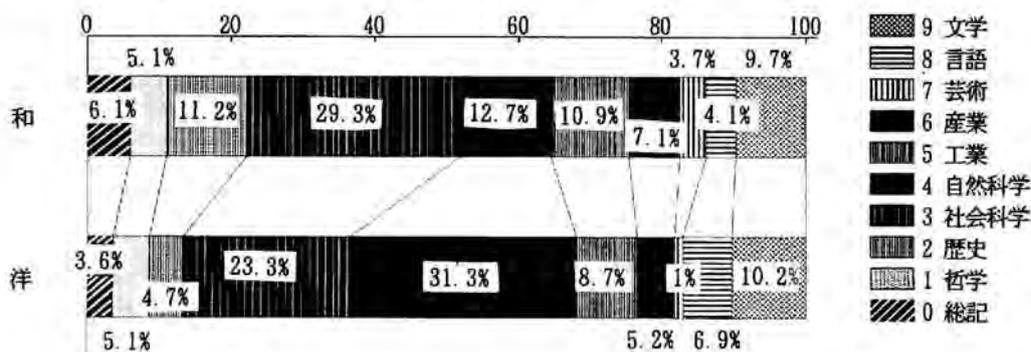
4. 入館者数

平成6年度の入館者数は、本館が534,829人、医学部分館が124,209人である。ここ5年間の入館者数の推移をグラフ2でみると、医学部分館はほとんど変化がないが、本館はここ2年間平均で10万人ペースの伸びがあるのがわかる。

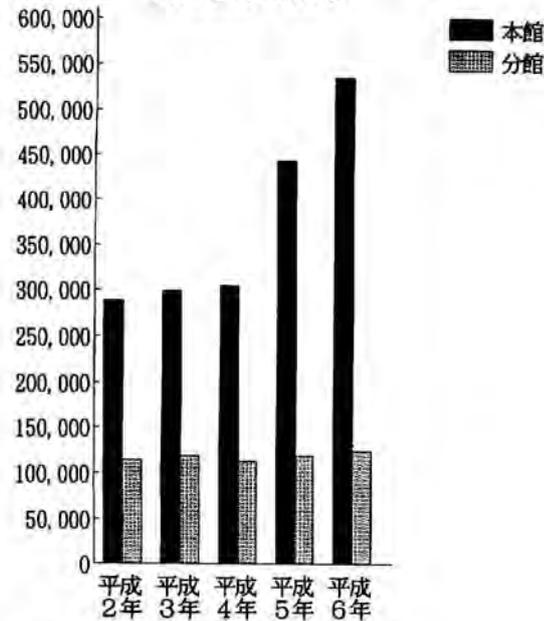
平成6年度の月別入館者数を平成5年度と比較してグラフに示すと本館、医学部分館ともグラフ3、4のようになる。本館では、6月、9月、12月、2月に山があり、6月、12月が平成5年度よりかなり伸びている。医学部分館では、6月、9月、2月に山があるが、平成6年度では前年の2月の山が3月にずれている。

1日平均入館者数は、本館が1,938人、医学部分館が422人で、本館は昨年度の1,607人から330人ほど増えている。

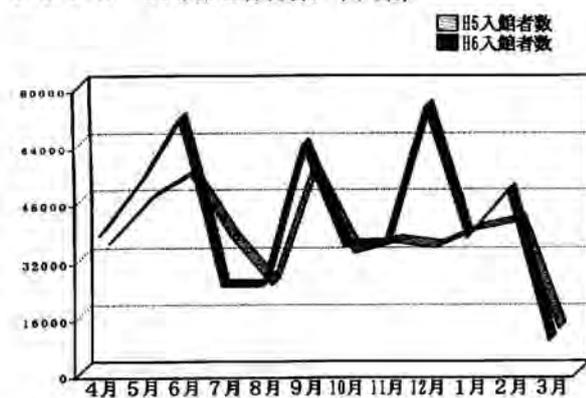
グラフ1 本館蔵書のNDC分類による構成比



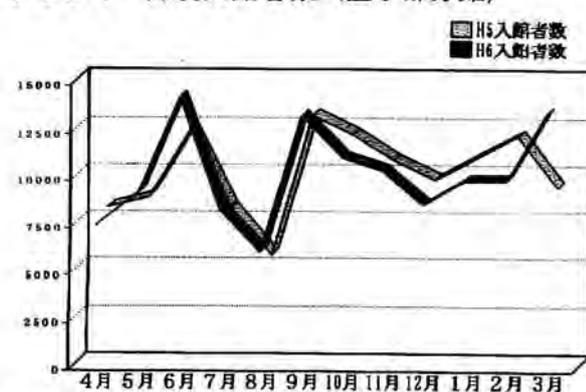
グラフ2 入館者数の推移



グラフ3 月別入館者数 (本館)



グラフ4 月別入館者数 (医学部分館)



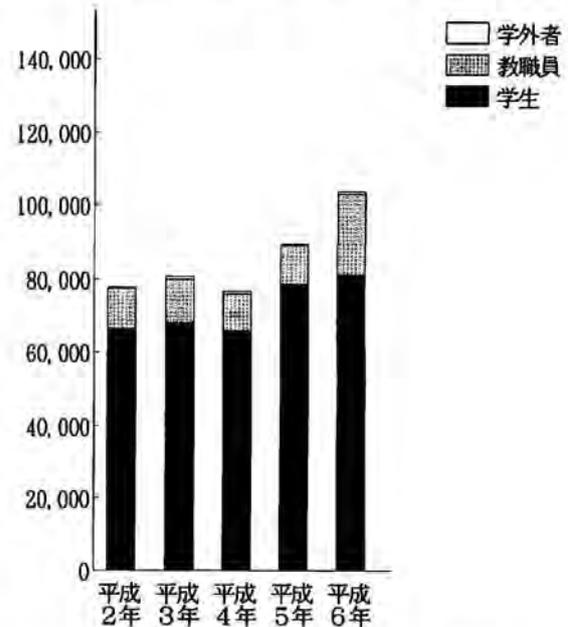
5. 館外貸出冊数

平成6年度の館外貸出冊数は表4のとおりである。本館、医学部分館とも学生の貸出冊数は昨年度より3,000冊ほど増えている。本館では教職員の貸出冊数が昨年度より2倍近くふえているのが目立つ。グラフ5、6に最近5年間の貸出冊数の推移を示す。

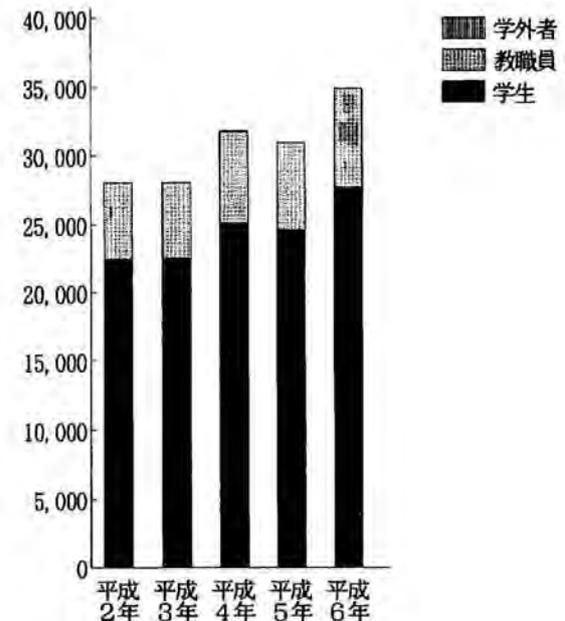
表4 館外貸出冊数

	本館	医分館	合計
学 生	81,120	27,694	108,814
教 職 員	21,960	7,450	29,410
学 外 者	600	0	600
合 計	103,680	35,144	138,824

グラフ5 貸出冊数の推移 (本館)



グラフ6 貸出冊数の推移 (医学部分館)



6. 館外貸出者数

平成6年度の館外貸出者数は表5のとおりである。昨年度に比べ、本館では学生が約2,000人、教職員が約1,000人増えている。医学部分館では学生が約1,500人、教職員が約300人増えている。

学外の貸出者はここ2～3年300人程度である。

表5 館外貸出者数

	本館	医分館	合計
学 生	37,975	14,168	52,143
教 職 員	4,050	2,992	7,042
学 外 者	303	0	303
合 計	42,328	17,160	59,488

7. 参考調査件数

平成6年度の参考調査件数は、表6に示すとおりである。本館で文献所在調査が400件ほど増えているほかは、本館、医学部分館とも処理件数は昨年度とほぼ同じである。

表6 参考調査件数

	本館	医分館	合計
文献所在調査	4,294	1,355	5,649
事項調査	429	691	1,120
利用指導	1,843	1,725	3,588
合計	6,566	3,771	10,337

8. 検索利用件数

平成6年度の検索利用件数は、表7に示すとおりである。特に医学部分館でのCD-ROM検索はMedlineが主であるが年々増加している。

表7 検索利用件数

	本館	医分館	合計
JOIS	10	0	10
DIALOG	66	0	66
NACIS-IR	9	0	9
CD-ROM検索	1,786	6,412	8,198
合計	1,871	6,412	10,337

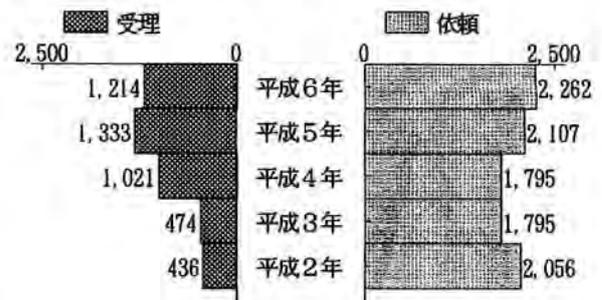
9. 文献複写件数

平成6年度の文献複写件数は、表8に示すとおりである。最近5年間の文献複写の受理及び依頼件数を本館、医学部分館別に表したものがグラフ7及び8である。これで見ると医学部分館の受理件数がこの5年間で大きく増えているのがわかる。

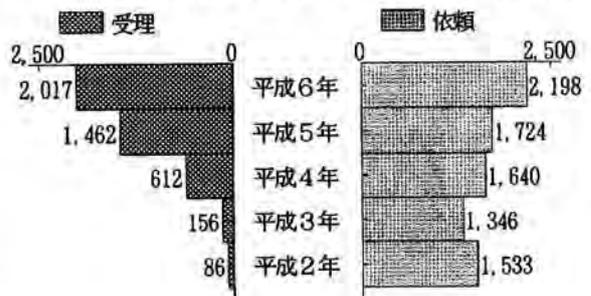
表8 文献複写件数

	本館	医分館	合計
文献所在調査	4,294	1,355	5,649
事項調査	429	691	1,120
利用指導	1,843	1,725	3,588
合計	6,566	3,771	10,337

グラフ7 文献複写件数の推移（本館）



グラフ8 文献複写件数の推移（医学部分館）



10. 相互貸借冊数

平成6年度の相互貸借冊数は表9のとおりである。

表9 相互貸借冊数

	本館	医分館	合計
貸出	192	9	201
借受	108	7	115

沖縄関係資料新着案内

1995年2月～1995年4月

1類 哲 学

1. 天の頂：宝瓶宮と琉球の壺／高安龍泉著
東京 史輝出版, 1994.12 (高安龍泉・諸
教新解釈シリーズ 2) K147-TA
2. 聖書のらい：その考古学・医学・神学的
解明／犀川一夫著 東京 新教出版社,
1994.9 K193-SA

2類 歴 史

1. 沖縄戦トップシークレット：Okinawa
War Confidential／上原正稔著 那覇 沖
縄タイムス社, 1995.3 K201.17-UE
2. 中国福建省・琉球列島交渉史の研究／中国
福建省・琉球列島交渉史研究調査委員会編
東京 第一書房, 1995.2 K201.18-CH
3. 中世の風景を読む 7／網野善彦石井進編
東京 新人物往来社, 1995.2 K201.4-IS
4. 沖縄の歴史と文化：海上の道探究／金関
恕 高宮廣衛編 東京 吉川弘文館,
1994.12 K201-KA
5. 沖縄県人物・人材情報リスト／日外アソシ
エーツ編集 東京 日外アソシエーツ (制
作), 1994.6 K280.3-OK
6. 南の島のマリア：時代に挑戦した女たち/
上坂冬子著 東京 文芸春秋, 1994.7
K280-KA
7. 沖縄・ヤマト人物往来録／国吉真永著 東
京 同時代社, 1994.5 K280-KU
8. 儀間真常公墓所再建報告書／儀間真常公墓
所再建記念事業実行委員会編集 [那覇]
儀間真常公墓所再建記念事業実行委員会,
1994.3 K289-GI
9. 私が歩んだ道／川上雄善著 沖縄 [川上
雄善], 1994.12 K289-KA
10. 覇道：獅子の如く／上野健一著 大阪
上野再生実践総合研究所, 1994.11
K289-UE
11. ゼンリン住宅地図：沖縄県：南風原町・東
風平町 1995 北九州 ゼンリン, 1993-
290.38-Z3
12. ゼンリン住宅地図：沖縄県：豊見城村

1995 北九州 ゼンリン 290.38-Z3

13. ゼンリン住宅地図：沖縄県：本部町・今帰
仁村・伊江村 '94 北九州 ゼンリン,
1992- K290.38-ZE
14. ゼンリン住宅地図：沖縄県：沖縄市・北谷
町 北九州 ゼンリン, 1994-
K290.38-ZE
15. ゼンリン住宅地図：沖縄県：名護市 北九
州 ゼンリン, 1993- K290.38-ZE

3類 社会 科学

1. 発言・沖縄の戦後五〇年／高良勉著 那覇
ひるぎ社, 1995.2 (おきなわ文庫 72)
K304-TA
2. 宮古の政治闘争史：差別、弾圧の中で輝
やき、苦悩した宮古の先覚者たちの軌道を
たどる...。／石垣義夫著 [平良] 石
垣義夫, [1994] K312-IS
3. Nuclear problems and Okinawa／[ed. by]
Teaching Group of a Course on Peace
Education 「Sciences of Nuclear Problems」,
University of the Ryukyus [Nishihara,
Okinawa] Teaching Group of a Course on
Peaces Education 「Sciences of Nuclear
Problems」, University of the Ryukyus,
[1994.7] K319.8-TE
4. 階：読谷村商工会設立20周年記念誌／読
谷村商工会 [編] [読谷村] (沖縄県)
読谷村商工会, 1994.3 K330.66-YO
5. 旧名護町人アルゼンチン移住誌／東江新得
編 Buenos Aires 在アルゼンチン名護浦
曲会 K334.4-AG
6. 具志川市婦人連合会四十周年記念誌／具志
川市婦人連合会編集委員編 具志川 具志
川市婦人連合会, 1989.11 K367.06-GU
7. 老いをみる：在宅福祉の現場から／山城
紀子著 那覇 ニライ社, 1995.2
K369.26-YA
8. 障害者にやさしい福祉社会をめざして：
沖縄県障害者福祉長期行動計画／沖縄県生
活福祉部 [編] 点字資料1巻 那覇 沖

縄県生活福祉部, [1994.12]

- K369.27-OK
9. 沖縄にかける橋：本土と沖縄の中学生交歓記／大城真太郎著 東京 東京出版, 1965.2 K371.3-OS
10. 新しい教育行政学の創造：生涯教育行政学とは何か／島袋哲教授退官記念論文集刊行会編著 那覇 三菱印刷えにし出版, 1995.3 K373.2-SH
11. 藤田長信の「学校便り」：八重山・元校長のガリ刷り通信から／藤田長信著 石垣ミル出版, 1995.2 K374.6-FU
12. 豊かな笑顔につながるように：「個」を生かすコンピュータ実践集／志堅原敦彦 [ほか] 著 那覇 沖縄時事出版：沖縄学販（発売）, 1995.2 K375.19-SH
13. おきなわの民話劇／おきなわ学校劇研究会編 那覇 沖縄時事出版：沖縄学販（発売）, 1995.2（おきなわ学校劇集 おきなわ学校劇集編集委員会編 第2集） K375.7-OK
14. 39年目の琉大修了式：琉球大学大島分校：終戦・分離・米軍支配・日本復帰・そして今／大津幸夫編著 [名瀬] 大津福祉会, 1993.12 K377.2-OT
15. 沖縄船漕ぎ祭祀の民族的研究／白鳥芳郎, 秋山一編 東京 勉誠社, 1995.2 K384-SH
16. 日本神話と琉球 東京 有精堂出版, 1977.3（講座日本の神話：『講座日本の神話』編集部編 10） K385.1-KO
17. トートーメーと祖先崇拜：東アジアにおける位牌祭祀／沖縄国際大学南島文化研究所編 那覇 沖縄タイムス社, 1994.12 K387-OK
18. 祖先崇拜の比較民俗学：日韓両国における祖先祭祀と社会／竹田旦著 東京 吉川弘文館, 1995.1 K387-TA
19. マレピトの文化史：琉球列島文化多元構成論／吉成直樹著 東京 第一書房, 1995.2（Academic series new Asia 15） K387-YO
20. 未完のゾルゲ事件／白井久也著 東京 恒文社, 1994.12 K391.6-SHI

4類 自然科学

1. PC SASによる基礎統計学入門／新城明久著 東京 東海大学出版会, 1995.1 K417-SH
2. 西北太平洋における台風個々の基礎資料／石島英, 朴崙錫 [著] [西原]（沖縄県）琉球大学, 1994.10 K451.5-IS
3. イリオモテヤマネコの百科／今泉忠明著 東京 データハウス, 1994.11（動物百科） K489.53-IM
4. イリオモテヤマネコ：亜熱帯の島に野性猫を追う／横塚真己人著 東京 ブロンズ新社, 1994.11 K489.53-YO
5. 沖縄および周辺地域における疾病とその疫学：琉球大学医学部公開講座：地域医療研究センターセミナー／琉球大学医学部附属地域医療研究センター [編] [西原町]（沖縄県）：琉球大学医学部附属地域医療研究センター, 1995.2 K498.04-RY
6. 琉球・沖縄との「かかわり」とその「あゆみ」／苗村利康著 若夏社編 那覇 苗村利康, [1992] K498.1-NA
7. 世界一長寿の島・沖縄の謎：元気で長生きする秘訣／大城真太郎著 那覇 [大城真太郎], 1992.3 K498.38-OS

5類 工 学

1. ホテイアオイによる窒素除去に関する基礎的研究／喜納政修 [著] [西原] [喜納政修], 1991.3 K519.4-KI
2. 沖縄戦ある母の記録：戦争は親も子も夫も奪ってしまった…／安里要江, 大城将保著 東京 高文研, 1995.2 K560-AS
3. モダン・オキナワン・クッキング：沖縄料理／Kojun, 比嘉京子著 東京 こーりん社, 1994.12 K596.21-KO

6類 産 業

1. 人と定風水／農村基盤総合整備事業記念誌編集委員会編 読谷村（沖縄県） 渡慶次公民館, 1994.5 K611.15-NO
2. 沖縄県土地利用規制現況図：縮尺 1:25,000／沖縄県企画開発部 [編] [那覇]

- 沖縄県企画開発部, 1993.2 K611.23-OK
3. 沖縄県共済連20年史／沖縄県共済農業協同組合連合会 [編] 那覇 沖縄県共済農業協同組合連合会, 1994.12 K611.6-OK
4. 新・緑化樹木のしおり／沖縄県造園建設業協会編著 新里孝和, 平良一男, 大竹岩男, 市来敏孝執筆 改訂版 [西原町 (沖縄県)] 沖縄県造園建設業協会, 1995.2 K629.7-OK

7類 芸 術

1. 島田寛平：1898-1967／寛平先生を語る会編 浦添 寛平先生を語る会, 1994.11 K720.8-KA
2. Okinawan dream：オキナワン・ドリームー／不破哲史著 南風原 (沖縄県) エポック, 1994.12 K726-FU
3. プツンちゃん／橋口まり子著 南風原 (沖縄県) エポック, 1994.10 K726-HA
4. Tropical：Amamiから南風：浜田太写真集／浜田太著 東京 小学館, 1994.10 (Touch books) K748-HA
5. Illusion／金城規克著 那覇 イメージサークル沖縄, [1992] K748-KI
6. ハルおばあ：比嘉ハルさん85歳生年祝記念写真集／渡具知伸著 [名護] 比嘉貞治, 1995.1 K748-TO
7. 沖縄印刷業発展史／糸洲安剛著 具志川タイムス住宅新聞社, 1995.1 K749.2-IT
8. ていいるうい：手彩織：大城志津子先生に捧ぐ／志織会編集 那覇 志織会, 1993.5 K753.3-SH
9. 琉笛工工四：古典音楽・民謡・獅子舞・棒踊り／玉木繁編著 那覇 玉木繁, 1994.8 K768.16-TA
10. 組踊と大和芸能／島中敏郎著 那覇 ひるぎ社, 1994.12 K773-HA
11. ダイバースバイブル Part 2／小出康太郎著 四街道 アクアプラン, 1994.1-1994.5 K785.2-KO
12. 子どもとはじめる自然「冒険」図鑑 東京 岩波書店, 1995.3 K786-KO
13. 空手世界を翔る／八木明達著 [出版地不明] プレイススポーツ社, 1984.2

- K789.2-YA
14. Applications of the Karate / by Morio Higaonna Tokyo Sugawara martial arts institute, Inc., c1990, 1994 (Traditional Karatedo Vol. 4 Okinawa Goju ryu) 備考：Includes bibliographical references K789.2-HI

8類 語 学

1. オキナワ語会話集：日本語・英語対照／渡由喜子 [ほか] 訳 東京 泰流社, 1995.2 K880-WA
2. オキナワ語単語集：日本語・英語対照／渡由喜子 [ほか] 訳 東京 泰流社, 1995.2 K880-WA

9類 文 学

1. 琉球文学：琉歌の民俗学的研究／屋嘉宗克著 東京 近代文芸社, 1995.2 K900-YA
2. 物語表現：時間とトポス／関根賢司著 東京 おうふう, 1994.9 K902-SE
3. 島尾敏雄・ミホの世界：ワルシャワ・奄美・鹿児島／久井稔子著 鹿児島 高城書房出版, 1994.3 K902-SH
4. 沖縄に歌ふ：石塚一徳遺稿歌集／石塚一徳著 那覇 石塚一徳遺稿歌集刊行会, 1994.5 K915-IS
5. 野の草：歌集／井藤道子著 鹿屋 野の花通信社, 1994.5 (明日香叢書 第121篇) K915-IT
6. やんばる：歌集／久場川トヨ著 那覇 久場川敬, 1994.3 (武都紀叢書 第60篇) K915-KU
7. 風紋のうた：森根信子歌集／森根信子著 那覇 黄金花表現の会, 1994.9 K915-MO
8. 回転ドア：句集／金城けい著 浦添 沖縄コロニー印刷, 1995.3 K917-KI
9. 花のある道：詩集／諸星詩織著 那覇 愛編集室・垂水社：沖縄学販 (発売), 1995.2 K917-MO
10. 官生物語／赤嶺精紀著 那覇 史誉出版社：海苑社 (発売) 1995.1 K930-AK
11. 金の壺／赤嶺精紀著 那覇 史誉出版社：

- 海苑社（発売）、1995.1 K930-AK
12. 幽霊を逃がしたか／川満信一著 南風原町
（沖縄県） エポック、1995.3（川満信
一コラム文庫 1） K940-KA
13. 豆腐買いに／川満信一著 南風原町（沖縄
県） エポック、1995.3（川満信一コラ
ム文庫 2） K940-KA
14. なつかしき迷信たち／川満信一著 南風原
町（沖縄県） エポック、1995.3（川満
信一コラム文庫 3） K940-KA
15. いっしょうけんめいぼくがんばる／きせひ
ろゆき絵 喜瀬輝代編 南風原町（沖縄）
那覇出版社、1995.3 K940-KI
16. 詩語の密度／宮城松隆著 那覇 脈発行所、
1994.12（沖縄の評論・エッセイ文庫 1）
K940-MI
17. 沖縄戦語り歩き：愚童の破天荒旅日記／
富村順一編著 東京 柘植書房、1995.1
K960-TO
- 注）各資料末尾の記号は請求記号です。

本学教官著作寄贈図書案内

1995年2月～1995年4月

- 石島 英（教養部）
台風学のすすめ：沖縄からみた、台風自然と
風土／石島英著 那覇 新星図書出版、
1995.5 K451.5-IS
- 比嘉 照夫（農学部）
人、くらし、生命が変わるEM環境革命：E
M情報大百科／比嘉照夫〔総監修〕 東京
総合ユニコム、1994.12 K465.04-Hi
- 冨浜 定吉（教育学部）
五線譜琉球古典音楽／冨浜定吉著 那覇 文
教図書、1980.6 K762-TO
- 五線譜宮古のあやぐ／冨浜定吉著 那覇 文
教図書、1990.11 K767.5-TO
- 岩政輝男（医学部）
琉球大学医学部地域医療研究センター研究論
文集 1～3／佐藤良也編 西原町 琉球
大学医学部地域医療研究センター、
1988-1993 W20.5
- 佐藤良也（医学部）
琉球大学医学部寄生虫学教室業績集 1～3
／佐藤良也編 西原町 琉球大学医学部寄
生虫学教室、1975-1992 QX5

図書館事情

【会議】

◎沖縄研究資料調査収集専門委員会

第27回 平成7年5月10日（水）

協議事項

- (1) 沖縄研究資料調査収集について

◎図書館運営委員会

第207回 平成7年6月9日（金）

報告事項

- (1) 国立大学附属図書館事務部課長会議（平
成7年度）について
- (2) 第25回九州地区国立大学図書館協議会
について

- (3) 第46回九州地区大学図書館協議会につ
いて

- (4) 平成6年度図書館統計について
- (5) 学生用図書の選書依頼について
- (6) 共通図書費減額の影響について
- (7) その他

協議事項

- (1) 部局図書委員会の設置について
- (2) CD-ROM検索サービスの今後のあり
方について
- (3) 沖縄研究資料調査収集専門委員について
- (4) その他

[人事異動]

氏名	現官職	前官職	発令日
与那嶺政吉	事務部長	国立極地研究所管理部会計課長	H7.4.1
平元 健史	情報管理課長	東京大学附属図書館情報サービス課課長補佐	H7.4.1
新本 肇	情報管理課総務係主任	工学部会計係主任	H7.4.1
榮野川 敦	情報管理課図書情報係	情報サービス課参考調査係	H7.4.1
赤嶺 久夫	情報管理課システム管理係	情報サービス課分館資料サービス係	H7.4.1
上原 恵美	情報サービス課分館資料サービス係	情報管理課図書情報係	H7.4.1
金子 豊	名古屋大学附属図書館事務部長	琉球大学附属図書館事務部長	H7.4.1
末次 驍	愛媛大学附属図書館情報管理課長	琉球大学附属図書館情報管理課長	H7.4.1
比嘉 達弘	学生部厚生課専門職員	情報管理課総務係主任	H7.4.1

[図書館運営委員会委員名簿]

(平成7年6月現在)

部局・職名	氏名	任期	部局・職名	氏名	任期
附属図書館 館長	比嘉 良充	～8.10.31	医学部 教授	飯淵 康雄	～8.9.30
医学部 分館長	平田 幸男	～8.3.31	工学部 教授	大塩 光夫	～9.3.31
法文学部 教授	田中 英光	～8.3.31	〃 助教授	野底 武浩	～8.3.31
〃 助教授	波平 恒男	～9.3.31	農学部 助教授	吉永 安俊	～9.3.31
教育学部 教授	阿波根直誠	～8.3.31	〃 助教授	大城 政一	～8.4.30
〃 助教授	小澤 保博	～9.3.31	教養部 助教授	赤嶺 守	～8.3.31
理学部 教授	山口 正士	～8.3.31	〃 助教授	中村 直	～8.3.31
〃 助教授	菅 修一	～9.3.31	短期大学部助教授	赤嶺 政信	～8.3.31
医学部 教授	野田 寛	～7.9.30	〃 助教授	福島 良一	～8.3.31

[医学部分館運営委員会委員名簿]

(平成7年6月現在)

部局・職名	氏名	任期	部局・職名	氏名	任期
医学部分館分館長	平田 幸男	～8.3.31	眼科学 教授	長瀧 重智	～8.3.31
解剖学第二 教授	安澄 文興	～8.3.31	基礎保健学 教授	飯淵 康雄	～8.9.30
生理学第一 教授	小杉 忠誠	～8.3.31	看護学第二助教授	伊是名初子	～8.3.31
耳鼻咽喉科 教授	野田 寛	～7.9.30	母子保健学助教授	外間登美子	～8.3.31
内科学第二 教授	高須 信行	～8.3.31			

[沖縄研究資料調査収集専門委員会委員名簿]

※ 委員長 比屋根照夫

(平成7年6月現在)

部局・職名	氏名	任期	部局・職名	氏名	任期
法文学部 教授	宮城悦二郎	～9.3.14	工学部 教授	福島 駿介	～10.4.29
〃 助教授	我部 政明	～9.3.14	農学部 教授	吉田 茂	～8.9.19
〃 助教授	上里 賢一	～9.3.14	教養部 教授	比屋根照夫	～9.3.14
教育学部 教授	阿波根直誠	～8.6.20	〃 教授	仲程 昌徳	～9.3.14
〃 助教授	金城須美子	～9.3.14	〃 教授	森田 孟進	～9.3.14
〃 助教授	豊見山和行	～9.3.14	〃 助教授	前門 晃	～10.4.29
理学部 助教授	渡久山 章	～8.9.19	〃 助教授	赤嶺 守	～9.3.14
医学部 教授	崎原 盛造	～10.4.29	※ 任期は3年間		

医学部分館だより

◎オリエンテーション

医学部オリエンテーションが平成7年4月10日(月)に行われ、平成7年度入学の医学部学生約170人に対し、医学部分館の案内・利用方法等についての説明を行った。

また、5月25日(木) 26日(金) 29日

(月) 30日(火)に平成7年度入学医学研究科及び保健学研究科学生に対して、6月6日(火)には新人看護婦に対して、二次資料の解説と利用法、CD-ROM検索と文献の入手方法について、約2時間にわたり説明とデモンストラーションを行った。

お知らせ

◎ 長期貸出の開始

平成7年度は夏季休業が7月11日(火)から始まりますが(8月31日終了)、これに先立つ11日前の6月30日より長期貸出(返却期限:9月11日)を開始します。貸出冊数は通常期と同じく、学部学生10冊以内、大学院院生、研究生、専攻科生15冊以内となります。

◎ 開館時間の短縮

夏季休業に伴い、7月11日(火)より8月31日(木)まで平日の月曜日から金曜日まで午前8時30分より午後5時までの開館となり、夜間開館はありません。土曜、日曜日にも閉館となります。

◎ 展示会開催予定

平成7年度第1回の展示会を以下のように開催する予定です。
 展示テーマ 「矢内原忠雄文庫南洋群島関係資料展」(仮題)
 期間 平成7年9月11日(月)から9月22日(金)まで
 詳しくは掲示等でお知らせします。

琉球大学附属図書館報 “びぶりお” 第28巻 第3号 (通巻第107号)

平成7年7月発行

発行 琉球大学附属図書館 〒903-01 沖縄県中頭郡西原町千原1番地

電話 098(895)2221 内線 (2143) 編集 びぶりお編集委員会